

平成 26 年度 みやざき小中学校学習状況調査の結果

宮崎県教育委員会

1 実施の概要

調査目的	県内の公立小・中学校及び中等教育学校(前期課程)、特別支援学校の小・中学部における児童生徒の学習の定着状況を把握・分析し、その結果をもとに、学校における学習指導の充実・改善等に役立てる。	
実施期日	平成 26 年 9 月 3 日(水)・4 日(木)	
対象学年・ 教科調査人員	小学校第 5 学年：国語、社会、算数、理科	10,354 人
	中学校第 2 学年：国語、社会、数学、理科、英語	10,427 人
調査対象校	<p>市町村立小学校 [235 校]・中学校 [133 校]</p> <p>※ 5 年生児童が在籍していない小学校 [4 校] (分校を含む) は、除いている。</p> <hr/> <p>五ヶ瀬中等教育学校(前期課程) *宮崎西高等学校附属中学校</p> <p>*都城泉ヶ丘高等学校附属中学校</p> <hr/> <p>特別支援学校 [3 校] (小学部 2・中学部 2) (調査の実施を希望する学校)</p> <hr/> <p>宮崎大学教育文化学部附属小学校/*宮崎大学教育文化学部附属中学校</p>	

- ・ 調査対象校の*の 3 校の結果については、調査実施日が異なるため、県の平均正答率には反映していない。

2 県全体の結果の概要

- 小学校第5学年及び中学校第2学年の教科毎の平均正答率は、次のとおりである。
 〈平均正答率〉

	国語	社会	算数・数学	理科	英語
小学校第5学年	45.5	65.2	62.2	65.0	
中学校第2学年	62.9	52.7	52.9	55.8	57.7

※ 教科によって問題の難易度等の違いがあるため、上記の平均正答率を一律に比較したり評価したりすることはできない。

- 本調査の結果を踏まえ、各学校では自校の課題を十分に把握し、学習指導の改善に繋げていくこととしている。県全体において、特に間違いの多かった問題と今後の改善のポイントを各教科一つずつ例示すると次のとおりであり、これらもあわせて指導の際の参考にすることとしている。

【小学校第5学年】

	間違いの多かった問題	改善のポイント
国語	段落のつながりを適切にとらえる問題	中心となる言葉や文に注意しながら、段落相互の関係をとらえる場面を設定し、文章の組み立てについての理解を促す指導を徹底する。
社会	問われていることを資料から読み取る問題	地図や立体地図を活用して課題を解決するするような資料活用場面を位置付けた指導を行う。
算数	身の回りにあるもののおおよその面積をとらえる問題	作業的・体験活動を積極的に取り入れるとともに、日常生活を含め量の大きさについての感覚を豊かにする指導を工夫する。
理科	実験の結果から言えることをまとめる問題	適切に考察する力や、実験結果から自分の考えを整理し、自分の言葉で表現する場面を意図的に設定する。

【中学校第2学年】

	間違いの多かった問題	改善のポイント
国語	文脈に沿って同訓異字を適切に使う問題	同音異義語や同訓異字は、漢字の使い方で意味が変わることを注意するとともに、意味をしっかりと考えながら読んだり、使ったりする習慣を育てるように指導する。
社会	歴史的な出来事について、その背景や影響を踏まえてとらえる問題	歴史的な出来事が起こった背景や社会に与えた影響、時代の移り変わりなどに気付かせるよう指導に努める。
数学	投影図で示された円錐の体積を求める問題	円錐をはじめ、立体の体積の求め方を自分の言葉で説明する活動を取り入れたり、体積を求めるために必要な数値を正しく判断させたりしながら、公式等を用いて求めることができるように指導する。
理科	岩石の種類の違いを組織によって判断する問題	実際の観察を通して、その結果をもとに岩石の名称やつくりのちがいを関連付けながら、実感を伴った理解が図られるよう指導するとともに理科の用語の定着を図る。
英語	英文で説明されている内容を英単語で表す問題	単語の意味や綴りを覚えるだけでなく、実際の使用場面を設定するなど、言語活動を積極的に位置付けて定着させる指導を工夫する。

3 調査の結果

(1) 小学校第5学年 (%)

教科	教育事務所別平均正答率	
	教育事務所名	平均正答率
国語	中部	46.0
	南部	42.3
	北部	47.2
	県全体	45.5
社会	中部	65.5
	南部	62.6
	北部	66.7
	県全体	65.2
算数	中部	62.2
	南部	61.0
	北部	62.9
	県全体	62.2
理科	中部	65.4
	南部	63.1
	北部	65.8
	県全体	65.0
4教科平均	中部	59.8
	南部	57.3
	北部	60.7
	県全体	59.5

○ 県の平均正答率は、調査対象校全ての正答率の平均で、教育事務所別の平均正答率は、各教育事務所管内の市町村立学校における正答率の平均です。

(2) 中学校第2学年 (%)

教科	教育事務所別平均正答率	
	教育事務所名	平均正答率
国語	中部	64.4
	南部	61.5
	北部	61.0
	県全体	62.9
社会	中部	53.5
	南部	53.3
	北部	50.1
	県全体	52.7
数学	中部	54.2
	南部	51.4
	北部	51.2
	県全体	52.9
理科	中部	57.0
	南部	56.0
	北部	53.0
	県全体	55.8
英語	中部	60.0
	南部	55.8
	北部	54.3
	県全体	57.7
5教科平均	中部	57.8
	南部	55.6
	北部	53.9
	県全体	56.4

4教科または5教科の教育事務所間の平均正答率の差は、小学校は3.4ポイント、中学校は3.9ポイントであり、全体100ポイントのうちの小さな数値にとどまっている。また、この数値は、全国学力・学習状況調査においてもほぼ同様な傾向であることから、各教育事務所間で著しい差があるとはとらえていない。

【小学校算数】

① 考察

- ・ 「折れ線グラフの読み取り」、「合同な図形の作図」などについては正答率が高いが、「およその面積」、「大きな数の大小関係」などについては低い傾向にある。

② 間違いの多かった問題例 (問題)

3(2) 面積が 3000cm^2 に最も近いと考えられるものはどれですか。次のア～エから1つ選び、記号で答えましょう。

- ア はがきの面積 イ 教室の子ども用のつくえの面積
ウ 教室のゆかの面積 エ 学校の運動場の面積

正 答 イ

(課題)

- ・ 出題内容「およその面積」について、身の回りにあるものの中から、示された面積に最も近いものを選び出すことに課題がみられる。

(改善のポイント)

- ・ 様々な具体物の大きさを調べたり、確かめたりする作業的・体験的活動を取り入れ、量の大きさについての感覚を豊かにする指導が必要である。

【小学校理科】

① 考察

- ・ 「動物の成長と季節」、「メダカの形状や卵の育ち」などについては正答率が高いが、「植物が成長する条件」や「日陰の位置の変化」などについては低い傾向にある。

② 間違いの多かった問題例 (問題)

2 3 だいすけさんは、この実験の結果からわかったことを、次のようにまとめました。文中の()に入る言葉を、下のア～エからすべて選び、記号で答えましょう。

この実験の結果から、植物がよく成長するには、水のほかに()が必要であることがわかった。

- ア 日光 イ 土 ウ 肥料 エ 空気

正 答 ア、ウ

(課題)

- ・ 出題内容「植物が成長する条件」において、実験結果からわかったことをまとめることに課題がみられる。

(改善のポイント)

- ・ 実験結果を適切に考察する力を身に付けさせるために、実験結果から自分の考えを整理し、自分のことばで表現する場面を意図的に設定することが大切である。

5 中学校第2学年の各教科の状況

【中学校国語】

① 考察

- ・ 説明的文章や文学的文章の「読むこと」についての内容把握、説明的文章の文章の構成・組み立ての把握に課題がある。

② 間違いの多かった問題例
(問題)

陸上大会で、 良い成績をおさめる。	問二 (2) 次の のひらがなを、漢字に直して書きなさい。 (必要なものには、送りがないものをつけなさい。)
--------------------------	--------------------------------------------------------------

正 答 収める
(課題)

- ・ 出題内容「漢字の書き取り」では、同訓異字を見分けて正確に書くことに課題がみられる。

(改善のポイント)

- ・ 意味をしっかりと考えながら文章を読む習慣が大切である。特に、同音異義語や同訓異字については、漢字の使い方の意味が変わるので注意が必要である。

【中学校社会】

① 考察

- ・ 「大陸の分布」や「日本の経済水域」については正答率が高いが、「応仁の乱」や「伝統的な住居と気候」などについては低い傾向にある。

② 間違いの多かった問題例
(問題)

- 2 5 中世について、資料7のようにまとめた。下の各問いに答えなさい。
(2) 資料7の **B** に入る戦乱名を答えなさい。

資料7 テーマ「中世の政治とアジア
とのかかわり」(一部抜粋)

B
※中世の政治とアジアとのかかわりを表す図

- ⑥ この戦いの後、実力のある者が、力をのばして上の身分の者に打ち勝つ下剋上の風潮が広がる。戦国大名が各地に登場し、戦国時代となる。

正 答 応仁の乱
(課題)

- ・ 出題内容「応仁の乱」において、応仁の乱後から戦国時代になったことについて課題が見られる。無解答率が高い問題である。

(改善のポイント)

- ・ 応仁の乱がその後の社会に与えた影響などについても考えさせるなど、地方の武士が力をもつようになった時代の移り変わりに気付かせる指導が必要である。

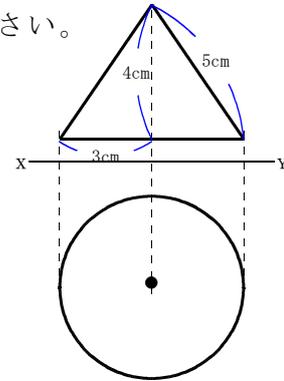
【中学校数学】

① 考察

- 「負の数の減法」、「線対称移動の作図」などについては正答率が高いが、「円錐の体積」、「反比例のグラフ」などについては低い傾向にある。

② 間違いの多かった問題例
(問題)

- 5 (2) 次の投影図で表された立体の体積を求めなさい。
ただし、円周率は π とする。



正 答 | 1 2 π cm³

(課題)

- 出題内容「円錐の体積」において、投影図で示された円錐の体積を求めることに課題がみられる。無解答率が高い問題である。

(改善のポイント)

- 体積の求め方を説明する活動を通して、体積を求めるために必要な数値を判断させ、公式等を用いて正しく求めさせる指導が必要である。

【中学校理科】

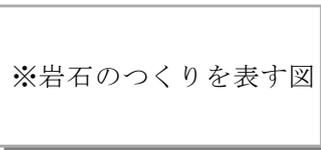
① 考察

- 「花のつくりとはたらき」、「地震の揺れ」などについては正答率が高いが、「火成岩の種類」、「圧力」などについては低い傾向にある。

② 間違いの多かった問題例
(問題)

- 3 1 図1は、ある火成岩を偏光顕微鏡で観察し、スケッチしたものです。図1のような岩石のつくりを何とといいますか。

図 1



正 答 | 等粒状組織

(課題)

- 出題内容「火成岩の種類」において、火成岩の種類のちがいによる組織のちがいを、図をもとに判断することに課題がみられる。無解答率が高い問題である。

(改善のポイント)

- 花崗岩や安山岩など、代表的な火山岩と深成岩を実際に観察し、観察結果をもとにそれぞれの岩石の名称とつくりのちがいを関連付けながら、理科の用語を定着させることが大切である。

【中学校英語】

① 考察

- ・ 「指示している内容の理解」、「電話での会話表現の理解」については正答率が高いが、「説明文の理解と語彙の表現」、「対話文の内容理解」については低い傾向にある。

② 間違いの多かった問題例
(問題)

6 次の(1)～(3)の英文を読み，説明されているものを，それぞれ**英単語 1 語**で書きなさい。

(2) It is a season of the year. People can enjoy some sports. For example, they can ski and skate. It is very cold in this season.

正 答 winter

(課題)

- ・ 出題内容「説明文の理解と語彙の表現」において、英文で説明されているものを英単語で書くことに課題がみられる。無解答率が高い問題である。

(改善のポイント)

- ・ 語彙指導の際に、単語の意味や綴りを暗記させるだけでなく、言語活動において活用することを通して定着を図る指導が必要である。